

モデル事業名	こやだいら・住民まるごと地域力向上事業
活動団体名	木屋平水源の里協議会
ホームページ	—
所属／ 担当者名	木屋平水源の里協議会 会長 阿部義則
連絡先	会長 阿部義則 (TEL0883-68-2411) 美馬市市民環境部ふるさと振興課 中川 (0883-52-8009)
活動地域	徳島県美馬市木屋平

● 活動地域の概要



【位置図】

四国の名峰剣山の山懐に抱かれる木屋平地区（平成17年の町村合併までは木屋平村）は、山間地に集落が散在する地域で、その豊かな自然のなかで、農林業を主産業として、約千人が生活しています。近年は少子高齢化の進行、人口流出が著しく、平均年齢59歳、高齢化率は52%に達しており、ほとんどが「限界集落」となっています。



● 活動地域の課題

少子高齢化や人口流出の著しい進行は、高齢者のみ世帯、高齢者単独世帯の増加につながり、地域コミュニティの活力低下や、農林業の衰退、環境破壊、地域福祉や防災の担い手不足が深刻となっています。こういったことから、高齢者はもちろんのこと、高齢者を支える家族や近隣の住民も生活に不安と不便を抱えながらの生活となっており、暮らしの安心の確保をはじめ、剣山や、吉野川水系の美しい自然環境の保全、農林業の再生、伝統文化の保護・継承について、地域全体として支えあう仕組みの構築が、地域の生き残りにかかった喫緊の課題といえます。

● 活動の内容

・(全体)

1. 活動事業

(1) 高齢者の暮らし安心づくり事業

- ①NPO こやだいらが進める有償運送
- ②ひとり暮らし高齢者の見守り、訪宅確認



2) 遊休地の管理や美しい事前の継承等の環境保全事業

- ①間伐材を活用した不法投棄防止啓発看板の設置
- ②木屋平環境管理協議会の開催・・・生活道路等の草刈りや支障木の伐採、希少動物の保護、カワニナ管理、間伐材活用観光案内板の維持管理

(3) 経験者のスキルを活かした地域全体で支える農林業再生事業

- ①農林業サポーター協議会の開催・・・間伐材再利用作業、中尾山栗園の整備（消毒、施肥、案内板設置、中尾山高原施設との連携）

(4) 世代を超えた地域文化振興事業

- ①傘踊り、獅子舞、まわり踊り、木屋平太鼓の伝承活動
- ②イベント開催（中尾山高原ライブ、産業文化祭、夏祭り）

● 活動の成果

・(全体)

1. 成果の内容

地域の問題点の解決に向けた活動を展開、地域住民一人々が地域の役割分担を認識し、地域間の交流、研修・講演・協議会等の参加が積極的に行われ、将来を見据えた新たな活動や取り組みが発見され、大きな成果であると考えます。

(1) 高齢者の暮らし安心づくり事業

安否確認見守りネットワークによる活動で、ひとり暮らし高齢者がより安全で安心の生活の確保で遠隔地の家族や周囲の住民たちも安心して生活できる。また、既存NPOの有償運送システムとの連携により、高齢者サービスの迅速化、的確化が図れ、利用者が増加している。

(2) 遊休地の管理や美しい自然の継承等の環境保全事業

地域見回り体制や啓発看板の設置により、徐々に地域内でのポイ捨てや不法投棄が少なくなっている。また、遊休地の管理や河川・国道・市道・集落道路の周辺の除草作業や清掃活動により、地域の環境が保たれている。また、往時の木屋平の自然を復活させるためのホテルの復活が始まっている。また、希少動植物の保護、増殖も定着した。

(3) 経験者のスキルを活かした地域全体で支える農林業再生事業

地域の農林業は、農林業サポーター協議会を中心に、消費者のニーズに合った既設の農産物(柚子、梅干し、味噌など)の加工販売により地域が活性化した。また、中尾山高原観光施設等と提携した中尾山観光栗園は、維持管理と栗園の再生で、より充実したため、相乗効果が現れ、増客となった。林業は、木材価格の低迷により、間伐や除伐が後れていたが、森林環境整備、雨降り対策として、間伐材を生かした加工品の生産や森林の持つ役割などが見直され、徐々に好機を迎えている。

(4) 世代を超えた地域文化振興事業

伝統芸能の継承により地域内外のイベントや発表会で、その活動結果を披露し、好評である。



● 今後の課題及び展望

・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

- 有償運送システムは、過疎地域で高齢化が進む中、自宅までの輸送手段は好評で、必要不可欠であるが、利用者のニーズに合うシステムを、さらに改善すべきである。
- 高齢者の安否確認活動では、ひとり暮らしの不安の解消により、遠隔地で暮らす家族との同居が先延ばしになったとの報告がある。また、高齢者が増加している地域でありながら、生活習慣的な発病も他の地域に比べて非常に少ない。高齢者を中心とした農林業作業支援事業をニーズに合った支援活動に改善すべきである。
- 不法投棄防止活動では、平成21年度に、地域ネットワーク化による監視体制で、不法投棄も減少の一途をたどっている。

・展望(今後の取組みや検討について記入)

- 本地域には、NPO法人こやだいら、地域づくり実行委員会と連携した組織や相互の特性を生かした活動と住民のニーズにあった取り組みを確立しなければならない。
 - 今後の取り組みは、将来にわたる活動の基盤づくりを目指し、主に組織づくりと今後の継続的な活動を行う。
 - 過疎化の中で、活動の担い手は年々減少しているが、山趣向の定住者も徐々に増加の傾向にあり、地域にも元気な住民も多く存在し、その中からも地域づくりの一役を担う人が出現してきた。
 - このようなことから、今後も「新たな公」で得た「データ」「組織」「人とのつながり」成果や経験を生かし、将来に向けた前出の団体と連携し、発展と進化をさせていくことで、今日も活動を行っている。
- ◎将来に必要な組織：(仮称)日まわりふれあい仕事人・(生活物資の注文、宅配、安否確認事業)・(仮称)木屋平地域農林産物集出荷システム事業の組織化。(地域内外向け)